

釣れ釣れなるままに

1996年思い出の釣行記 PART. 4

# 久々の大物釣行記



## 鹿島釣狂

## 釣遊会第4回大会

☆開催日	平成8年7月21日		
☆開催場所	浜荻伏港～旭港		
☆入釣場所	屏風岩～ルランベツ		
☆潮	干潮	23:40	82cm
	満潮	05:49	132cm
	干潮	12:23	49cm
☆釣果	アブラコ	468mm	1
	カジカ	200mm	1
	ハゴトコ		3
	重量	2840g	
☆成績	合計点数	952点	
	成績	身長優勝	
	持ち点	4点	

### 釣講座参加

7月12日、名人会の金井泰樹氏を講師に岩見沢市民会館で釣講座が開催された。次の日は休日なので女房への御土産である洗濯物を持って会場に直行した。氏によると釣りは状況判断が最も大切であること、そしてそれは長年の体験の積み重ねによって研ぎ澄まされること等、それこそ金井氏の輝かしい実績に裏打ちされた講義であった。私は氏のことを釣遊会の皆さんから伝え聞くだけで実際には良く存じてはいない。しかし、氏の話聞けば聞くほど皆さんの話が納得できる。木訥な（失礼ペコリ）物言いの中に天才釣師が持っている独特な嗅覚をも感じさせる人である。もちろん講義の中に会員の皆さんからの質問あり、会員同志の熱の入った討論ありで釣講座は盛り上がった。私にとっても大変有意義なものになった。

しかし、少し残念なこともあった。「当日は会員それぞれ自分の仕掛けを持参するように」との連絡で、私は皆さんからお教えいただきながら改良した（例のヒラヒラ、ピカピカ）仕掛けを持参した。早速、金井氏にそれを見ていただき適切なアドバイスをいただいたが、他の会員からは堀氏の仕掛けだけであった。この機会に他の会員の仕掛けを研究することができたらと考えていたのにとっても残念である。（失礼コホン）「技は教えてもらうものではなく盗むもの」といわれてしまえばその通りなのだが・・・。

### 第4回大会（7月21日 浜荻伏港～旭港）

7月21日第4回大会に参加することができた。当日は職場の行事で夕張岳登山が組まれており、大会には参加することができないと思っていたが、職場で悪性の風邪（青年になってから罹ると子づくりができなくなるという）が流行り、行事が延期になった。（職場

の皆さんには申し訳ないがなんとラッキーなのだろう。決して、もっと流行れと念じていたのではナイ)

当日の釣場範囲は浜荻伏港～旭港で私は屏風岩に入釣した。金井氏の釣講座では幌満の市街を抜けた所が本命場所であるように感じたが、当日の私の状況判断（まだまだおまえには早すぎる？）では東山中が本命であった。それで、どちらへも比較的移動可能な（やはり自分の状況判断には自信が持てない）ルランベツ覆道の屏風岩に決めたのである。もちろん私が入釣するのは初めての場所である。貴社発行の『釣場ガイドマップ』には「この間釣り場無し」とある。後で、訂正願いたい。（失礼ウオッホン）

### 貴社調査に間違いはないか？

12時すぎ現地到着。島氏と臨時の方と一緒に降りる。島氏はルランベツ覆道を越えた階段下の小川の前で竿を出す。アカハラ、カジカがねらいたと言う。少し心が動くがやはり屏風岩、屏風岩。防潮堤下のゴツゴツした岩の上を200mほど歩き、屏風岩の前に出た。程よい波かげんでいかにも大物が潜んでいそうな雰囲気である。が、暫くやってもアタリなし。やはり貴社調査には間違いはないか。暫くたってピンコハゴトコとピンカジカが来る。

「釣場では大きいものから先に来る。」と先輩たちはいう。そう思うと素晴らしい寡黙の釣場もまったく魅力がなくなってしまう。潮が満ち始め、帰りが心配になったことも合わせ、その場は早々に退散する。

### いや、大物だ！

次は東山中へと思ひ、覆道の階段下へ向かう途中、夜目にも黒々と海草の付いたサラシ岩が適度な距離に見える。せっかく来たのだからここでもう少しやることにするか。イカゴロネットでは根に届かないので、コマセネットに大ぶりのカツオを1本つけ、投げ込む。すぐにアタリだ。かなり大きなアタリで竿を大きく煽るがスッポ抜ける。慌てて同じ所にもう一度投げ込む。またまた、大きなアタリ。グググッ、グーと来たところで大きく合わせる。今度はしっかりかかったようだ。いや、根がかりだ。しかし、魚がついているのかグググッ、グググッと竿を揺らす。昆布の向こうのかけ上がりで根がかりしたようだ。竿を丁寧にポンピングする。少しずつ少しずつ抜けてきているようだ。少し強めにポンピングした。ズルッと抜けて来た。大きい。テトラ越しの釣りだったのでいったんテトラの上にかかる。

アブラコの大物だ。根がかりもあったので抜き上げるにはチト心配である。テトラの一番下に下り、手を差し出す。テトラの上に波が上がってきて取り込みずらいがなんとか口の中に指を入れることができた。このぐらゐのアブラコになると歯も鋭く顎の力も強い。口を閉じられかなり痛い但我慢、我慢。その痛さも心地好い。釣場に戻り一息着いた。「うーむ、大きい」ふと気が付くと全身ずぶ濡れであった。無我夢中で分からなかったが、取

り込みの時に濡らしてしまったものらしい。しかし、その冷たさもなんだか心地好い。

### 大変珍しいことに

佐々木氏が幌満からやってきた。防潮堤の中間あたりからテトラの上にヒラリと下りてくる。そんなところから下りるところはないと思っていたのだが本当に釣場に明るく感心させられる。しかも、大きな荷物を背負ったままテトラの上をヒョイヒョイと跳び越えながらやって来た。氏にしては珍しく獲物が少ない。アブラコを見ていただき、お褒めの言葉をいただく。

吉井氏もやってきた。やはり、本命場所とした幌満市街地外れはあまり良くなかったようだ。しかし吉井氏はその後、ルランベツ覆道前でアブラコを次々と抜いたのを付け足しておく。

### 勿体ぶった結果発表

審査の結果、私は46.8cmのアブラコで身長優勝であった。皆さんにしては、「なんだその程度で大物釣行記とは片腹痛い」と思われるかもしれないが私にしては大変な大物である。点数は952点で4位である。残念ながら4回連続の千点越えはならなかったがまあよしとしよう。重量優勝は東山中に入った岡氏で1066点。準優勝はルランベツから東山中へ流していった島氏で1049点。やはり東山中が本命場所とした私の勘は当たっていたようである。3位は962点の荻野氏であった。場所は聞いていないが氏の本命場所である荻伏に違いない。

さて、次回の釣行記は『柳の下の2匹のどじょう?』



